



がんばろう日本！ 東日本大震災の復興をみんなで支えよう

～被災者と被災地を支援する荒尾市内の動きと災害発生に備える取り組み～

また、「普通に暮らせることは、とても幸せなことです。一人一人がむだをなくし、大切にして暮らしてほしいです。少しずつ集まって東北に届けば、力になります」と、被災地への支援を切実な表情で呼びかけました。

生野さんは「地震の後、『津波が来るぞ！』という男性の声を聞きました。妻と二人で、服をたくさん着こみ、貴重品を持って1キロほど離れた避難所へ向かいました」と、その時の様子を語りました。

4月1日（金）、東日本大震災で被災された生野貴久さん（右写真）一家が、市で被災者居住用に準備している市営住宅に入居することになりました。



被災地から荒尾市へ 生野さん一家、市営住宅へ



▲熊本の人に被災の実態を知ってほしいとも語った生野さん。



1



2



3



4

1. 消防学校に集められた物資。衣類と日用品。2・3. 荒尾市からの物資。市で分類して持ち込みました。4. 搬送に使用したトラックは、熊本県建設業協会荒尾支部にご協力いただきました。



心と祈りを載せて 被災地への救援物資を運搬

4月2日（土）・3日（日）の2日間、被災地への救援物資を募集しましたところ、全47件3千945点が集まりました。ご協力ありがとうございました。

6日（水）、集荷所である熊本県消防学校（益城町）にくらしいいき課職員が搬送しました。県内から集まった救援物資は、県を通じて被災地に送られました。

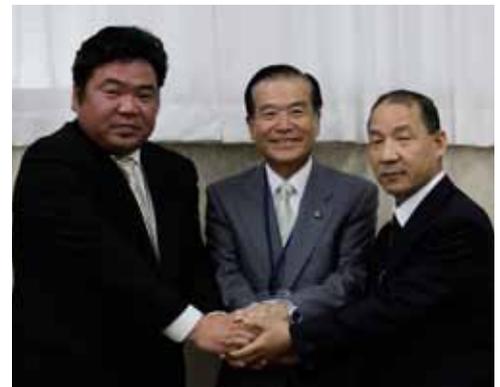


あらかしタイムモールを 災害時の一時避難場所に

4月14日（木）、荒尾市とあらかしタイムモールの運営会社（荒尾シティプラン株式会社・荒尾商業開発株式会社）が、災害時における支援に関する協定書に調印しました。この協定は昨年末から協議を続けていたもので、あらかしタイムモールの駐車場と施設を、災害時に一時的な緊急避難場所などとして利用することができることを定めています。

災害時、地域住民以外にも買い物客や観光客らの避難場所や、緊急車両の駐車場などに活用される予定です。

両社は「地域に根差した店舗づくりを一層進めたい。今後も市と協力していきたい」と語りました。



▲（左から）荒尾シティプラン株式会社代表取締役 梶原雄一朗さん、前畑市長、荒尾商業開発株式会社代表取締役 坂田美千也さん。

許しません！資源ごみの不法な持ち去り

～資源ごみ持ち去り防止監視パトロール出発式～

4月7日（木）、市役所で資源ごみ持ち去り防止監視パトロールの出発式が行われました。式では前畑市長と荒尾警察署の松本生活安全課長がパトロールに出発する職員に激励の言葉をかけました。

近年、各地区のリサイクルステーションでは資源ごみが不法に持ち去られる事件が多発。市では持ち去り禁止を盛り込んだ条例を4月1日から施行し、職員によるパトロールを行います。一番の持ち去り防止策は、資源ごみを朝から出すこと。ご協力をお願いします。



▲青色回転灯をつけた車両で、職員がリサイクルステーションを見回ります。このパトロールは、夜と早朝の2回行われます。

桜と牡丹の共演 爛漫の春を楽しむ茶会

～牡丹茶会～

4月10日（日）、宮崎兄弟生家で牡丹茶会が開催されました。当日は晴天にも恵まれ、およそ100人が訪れました。

宮崎兄弟生家の庭に植えられた牡丹は八分咲の状態でしたが、桜は満開。訪れた人は、お茶のおもてなしを受け、和やかな春のひと時を過ごしました。

市では、中国辛亥革命100周年を契機に、孫文と宮崎兄弟の功績が分かるDVDの作成や、10月に記念事業を予定しています。ぜひ一度、宮崎兄弟生家に足を運んでみてください。



▲中国の要人も訪れる宮崎兄弟の生家。歴史情緒を感じる場所でのお茶会に、多くの方が訪れました。牡丹は毎年、4月いっぱいが見頃です。

おはようの声響く 通学の安全を見守る

～新一年生の安全を見守るタッチ運動を実施～

4月12日（火）、新一年生初登校にあわせ、市内各所で警察署や交通安全協会、保護者、地域の人などが交通誘導をするタッチ運動が行われました。

緑ヶ丘小学校付近の交差点では、市長や警察署長らが登校を見守りました。真新しい帽子とランドセル姿の1年生は緊張の面持ちでしたが、上級生と一緒に、元気なあいさつをしていました。私たち市民一人一人が児童を見守ることで交通事故から守り、自分自身の交通安全意識を高めていきたいものです。



▲自動車の往来が多い通学路。安心して楽しい学校生活を送るためにも、交通安全には誰もが気をつけたいものです。